

めざす姿の実現に向けた取組方向

(1) 担い手と雇用人材の確保

- 道内外の他地域やサービス・観光業等の他産業、福祉事業所などとの協働、外国人材の受け入れといった雇用人材確保に向けた取組の推進
- 就農トライアルツアーなど、市町村と連携した担い手確保の取組や、農業高校生向けの出前授業や先進農家の視察などを行うとともに、新規就農者等の経営力向上のための研修会等の実施

(2) 高収益化の推進

- 基盤整備の計画的な推進と、RTK-GNSSを活用した農業機械や施設園芸における環境制御設備などの導入を支援するとともに、作業の共同化や外部化の取組を推進
- 観光と一体化した多角的な農業経営や、新たな需要を切り拓く新規作物の導入、農産物の価値をさらに高める6次産業化の取組を推進

(3) 豊かで魅力ある農村の確立

- 体験・滞在型観光の推進プロジェクトと連携し、上川地域ならではの魅力を発信するとともに、幅広い世代に対する食農教育を推進
- 指導農業士・農業士会や農業法人ネットワークの研修会などを通して、移住者等を含めた地域内の交流促進に向けた機運を醸成
- 観光業など農業関係者以外も巻き込んだ多様な受入主体による農村ツーリズムの取組を推進

令和3年度の取組状況

(1) 担い手と雇用人材の確保

- 旭川市、その周辺町及び農業関係機関による上川農福連携推進地域連絡会議を設立し、農福連携への理解促進、農業と福祉の相互理解に向けた取組を開始した。
- 新規就農者の確保に向けて、剣淵町と連携して、受入側の体制整備やノウハウ構築を目的とした就農トライアルツアーを開催した。
- 上川管内農業担い手育成協議会と連携し、新規就農者等を対象に「上川新農経塾」を開催し、指導農業士の講演や参加者同士の交流を通じて、参加者の経営管理技術の向上を図った。
- 管内農業高校等の生徒を対象に農業施設の視察等を実施し、就農意欲の向上を図った。

(2) 高収益化の推進

- 基盤整備の計画的な推進を図るとともに、地域における自動操舵装置やハウス自動換気装置等の導入を支援した。
- 水田地域における計画的な基盤整備と省力化を推進するため、ホクレン、試験場、普及センター、局内関係課による情報交換会を行った。
- 地域のそれぞれの課題に応じて、生産性向上・高品質化、低コスト・省力化等の取組を総合的に推進する地域政策推進事業に取り組んだ。
- 冬期の無加温ハウスにおける野菜生産の振興に向けて、管内の事例調査を行うとともに、地域関係者や実需者等と意見交換等を行った。
- 「かみかわ6次産業化研修会」を開催し、管内の取組者による講演やほ場紹介を行い、6次産業化の実践農家等のステップアップを推進した。

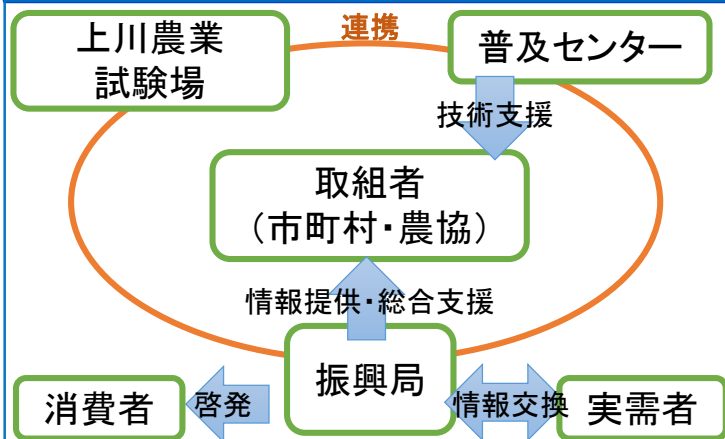
(3) 豊かで魅力ある農村の確立

- 地域住民を対象に、お米をテーマとした食育セミナーを開催し、旭川農業高校の取組等の紹介や、食育に取り組む農業者による講演を行い、上川農業への理解促進を図った。
- 「かみかわ有機農業ネットワーク」による朝市を開催し、農業者と消費者の交流を図るとともに、消費者の有機農業への理解を促進した。
- 管内で農泊に取り組む組織に対して、北海道農泊推進ネットワーク会議への参加を呼びかけるとともに、相談窓口において情報提供等を行い、地域の取組の磨き上げを支援した。

現状と課題

- ゼロカーボン北海道の実現に向け、農業現場においても、温室効果ガスの排出抑制に貢献する取組が求められている。
- 国内外で気候変動問題への対応が課題となる中、上川農業試験場で、冬期の無加温ハウスでの野菜生産技術が開発され、冬期の農業所得の確保や、道外産農産物の移入によるCO2削減が期待されている。

体制図



※R4年度以降の体制のイメージ

取組の概要

- ゼロカーボン北海道にも貢献する冬期の無加温ハウスでの野菜生産の推進に向けて、展開方針を検討した。
 - ・ 管内における冬期の野菜生産の実態を把握するため、市町村や農協等と意見交換を実施
 - ・ 品目選定や販路確保に向けて、市場との意見交換を実施
 - ・ 東神楽町における取組事例の視察



- ・ 冬期の無加温栽培が可能な品目のうち、上川農業試験場が栽培・加工に取り組む新規野菜「ポーレコール」(ケールの一種)の試食を市場で実施し、市場性について検討

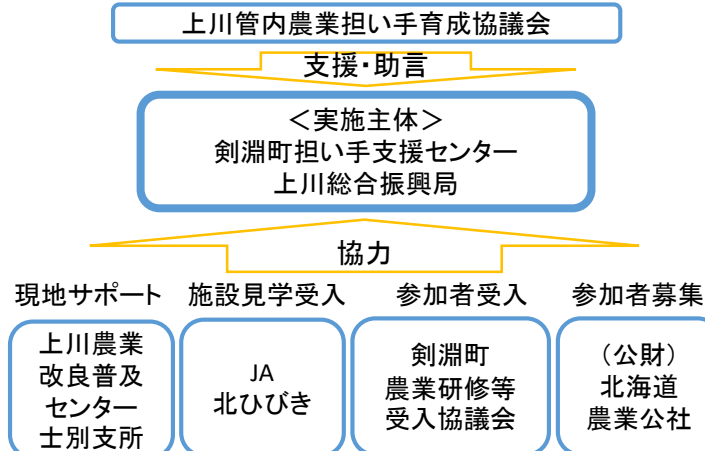


- 意見交換や調査の結果を踏まえて、次年度以降に実証試験や農業者向けセミナーを開催するとともに、実需と連携して当該取組が面的に広がるよう支援する。

現状と課題

- 上川管内は、農家戸数の減少率と農業従事者の高齢化率が全道平均より高い水準で推移している。
- 各市町村で新規就農希望者の受け入れや新規就農者への支援を行っているが、体制整備やノウハウの構築などが十分とは言えない地域もあり、地域の実態に合わせた支援が必要とされている。

体制図



取組の概要

- 新規就農者の確保に向けて、剣淵町と連携し、将来的に就農の意向がある方々のプレ研修として2泊3日の就農トライアルツアーを開催した。
- 道内から1組2名の参加申込みがあり、剣淵町内の3農家でかぼちゃ・馬鈴しょ・スイートコーンの収穫・選別作業を体験してもらった。



馬鈴しょ収穫の様子

- 体験後に参加者から、本ツアーを通じてますます就農意欲が高まったとの感想をいただいたが、一方で、受入れ農家への参加者に関する情報の事前提提供の必要性や、食事等の負担といった課題も明らかとなった。
- 町ではこれらの改善に向けて取り組むとともに、振興局においては今回のツアーを横展開し、各市町村の体制整備を推進する。



めざす姿の実現に向けた取組方向

(1) 留萌農業を支える多様な担い手・人材の育成・確保

- 円滑な就農に向けた受入体制整備、農業知識・技術早期習得の取組などを推進
- 青年農業者組織の活性化に向けた支援や、女性農業者が活躍できる環境づくりを推進
- 農業法人の経営発展に向けたセミナーの開催、家族経営体を支えるTMRセンターなど営農支援組織の育成・体質強化の取組を推進 など

(2) 収益性の高い魅力ある留萌農業の確立

- 基幹作物である水稻の基本技術の励行による収量・品質の向上や、低コスト・省力化栽培技術の導入を推進
- 畑作物のほ場の透排水改善による収量・品質の向上や、野菜、果樹、花きの栽培技術向上に向けた取組を推進
- 高品質で安全・安心な農産物の生産に向けた取組やスマート農業技術の導入支援、計画的な農業生産基盤整備を推進 など

(3) 活力と魅力あふれる農業・農村づくり

- 関連企業との連携による高付加価値の取組を推進
- 地場農産物の消費・販路拡大を図り、地元愛を高める地産地消を推進するとともに、留萌農業の情報や魅力を幅広く発信 など

令和3年度の取組状況

(1) 留萌農業を支える多様な担い手・育成の人材の育成・確保

- 新規就農者の農業知識・技術の早期習得及び地域を越えた仲間づくりを進める「るもい農業基礎ゼミナール」を開講した。
- 管内4Hクラブ活動の1年間の集大成として個々の課題に取り組んだ成果等を発表する「ファーマーズトーク in RUMOI」を開催した。
- 農業法人の経営安定化に向けた課題解決の一助とする「留萌管内農業法人情報交換会」の開催や、TMRセンターの経営安定を図るための「留萌管内TMRセンター情報交換会」を開催した。



農業基礎ゼミナール



青年農業者の成果発表

(2) 収益性の高い魅力ある留萌農業の確立

- 水稻の初期生育の向上を目的とする育苗講習会の開催や、土壌診断結果に基づいた施肥などの基本技術の実施、省力技術である水稻湛水直播の栽培管理技術向上の支援をした。
- 畑作物の単収向上に向けたカットドレーンによる透排水性改善技術の実証・効果検証や、栽培技術向上に向けたハウス栽培の環境制御システムの技術支援をした。
- 遠別農業高校のASIAGAPへの新規認証取得の支援や、農業女子を対象にした「農村女性グループスマート農業技術研修会」の開催、水田の大区画化など農業生産基盤整備を実施した。



育苗講習会



無人トラクターの実演

(3) 活力と魅力あふれる農業・農村づくり

- 色素用紫さつまいもの寒冷地での安定生産に向けた技術確立と、色素以外の新たな用途の特産品創出に向けた支援をした。
- 観光農園集客促進とるもい米の消費拡大のため、観光農園で商品購入した1000名に米を配布する取組や、うるち米・もち米・酒米の特徴を学び、調理して食べ比べをする親子料理教室を開催した。

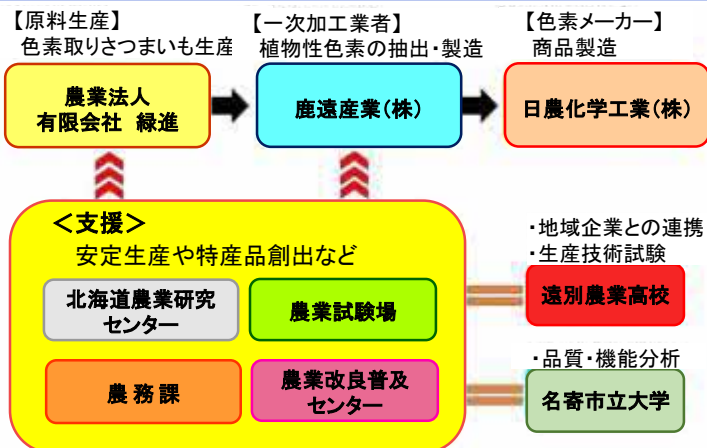


親子で学ぶ料理教室

現状と課題

- 遠別町の鹿遠産業(株)は、天然由来色素を抽出する一次メーカーであり、赤しそなどから赤色色素の抽出を行ってきた。
- 近年、色素用紫さつまいもの主産地である九州の栽培面積が激減し、実需側から代替産地として北海道内での色素用紫さつまいも栽培が期待されるようになった。
- 平成29年より鹿遠産業(株)と農業法人(有)緑進で色素用紫さつまいも栽培が始まったが、寒冷地であることから生産が不安定であり、技術確立が必要である。

体制図

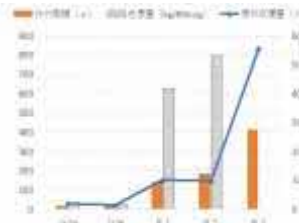


取組の概要

- 鹿遠産業(株)【加工】が中心となり、農業法人(有)緑進【生産】と日農化学工業(株)【実需】の農商工連携による色素用紫さつまいも栽培に対し、試験研究機関など関係機関との支援体制を確立し、寒冷地での安定生産に向けた技術確立と、色素以外の新たな用途の特産品創出に向けた支援をしている。

令和3年度の実施内容

- 大きな課題であった「欠株率の低減」に向け、植え付け時期の調整(本州からの苗供給を5月末～6月に遅らせる)や移植機導入による植え付け技術の平準化などとともに、各種技術検証を実施した。この結果、目標であった原料収穫量(50トン)に達することができた。



紫さつまいも移植機の導入



紫さつまいも色素



遠別農業高校への支援

- 寒冷地での安定生産技術確立後の収穫物の余剰を見据え、色素以外の新たな用途の創出が必要であることから、食用など新たな用途の特産品創出に向けた支援をした。



新たな用途に向けた試作(紫さつまいも+もち米)

現状と課題

- 農家戸数の減少や労働力不足から新規就農者の育成・確保が喫緊の課題である。
- 新規就農者が農業に関する知識や技術を学ぶ場が少ない。
- 新規就農者は地域に点在しており、地域外の農業者と交流する場が少ない。

体制図

新規就農者

るもい農業基礎ゼミナールの開校

～めざすところ～

- ★農業の基礎的な技術や知識を取得する
- ★技術や経営の悩みを相談できる仲間をつくる
- ★農業や経営の仕組みを知る
- ★農業者として目標・夢を持ち、農村生活を楽しむ
- ★地域の良さを理解し、地域に愛着を持ち、情報を発信する

主催

- 留萌農業改良普及センター
- 留萌振興局農務課

連携

協力

- JAるもい
- 各市町村
- るもい指導農業士・農業士会

取組の概要





- 新規就農者の農業知識・技術早期の習得及び地域を越えた仲間づくりを進めるため、「るもい農業基礎ゼミナール」を開講している。

令和3年度の実施内容

- 留萌管内は、南北に細長く、経営形態も異なるため分校方式・コース別で開講した。

コース名	中分校			南分校	畜産分校
	水稻コース	畑作コース	園芸コース	水稻コース	酪農コース
受講対象者数	6名	5名	5名	7名	5名

<各コースの研修内容と受講生の感想>

水稻コース(7回開催)		研修後の受講生の主な感想
	苗の見方、育苗管理方法等について研修	苗の葉数の見方や育苗ハウス内の温度管理について、勉強になった等
畑作コース(3回開催)		研修後の受講生の主な感想
	収穫間近の秋まき小麦の生育調査等について研修	秋まき小麦の穂数を適正本数にする管理が重要であることがわかった等
園芸コース(1回開催)		研修後の受講生の主な感想
	冬期間の野菜栽培等について研修	冬期間の雇用やハウスの有効活用が可能な冬野菜の栽培について勉強になった等
酪農コース(3回開催)		研修後の受講生の主な感想
	エサの種類と特性、粗飼料分析等についての研修	実際に粗飼料や配合飼料などのサンプルを見ながら、特徴や特性がわかった等

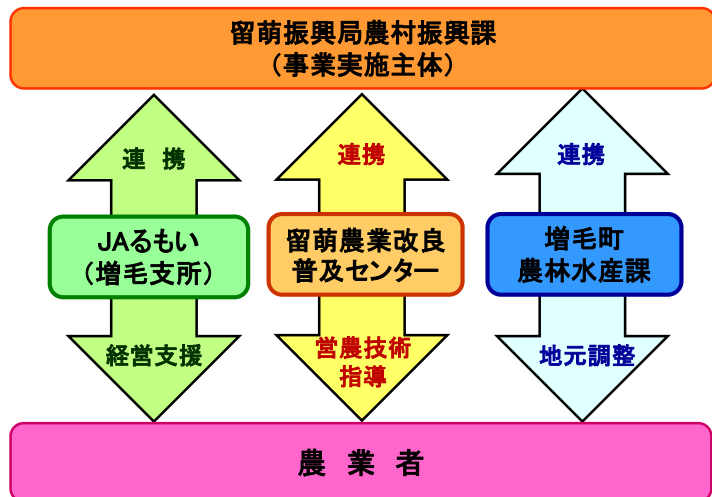
- 全てのコースの研修生を対象とした合同研修会として、「青年農業者交流研修会」を11月24日に開催した。研修会では、若手農業者や遠別農業高校生も出席し、「留萌で就農するためには」をテーマにグループトークが行われ、担い手が不足する地域農業について考える貴重な機会となった。



現状と課題

- 増毛町では、過去に基盤整備が実施されておらず、平均区画は13a程度と作業効率の悪い狭小区画が多く存在している。
- 暗渠排水も未整備であり、排水不良土壌の水田では、機械作業が困難である。
- 用排水路は土水路で兼用も多く、湿害の原因となるほか、転作への影響がある。
- 高齢化・担い手不足が懸念されるものの、農地の集積・集約化が進んでいない。

体制図



取組の概要

- 町・農協が主体となり地域の将来像について話し合う座談会を経て、平成24年度に「増毛町水田農業検討会」を設立。全町一円の水田を対象とした道営事業の実施に着手、令和6年度の完了を目指している。

令和3年度の実施内容

- 基盤整備の実施により、酒造好適米の生産が拡大し所得が向上しているほか、若手後継者が集まり「特別栽培米」の生産にチャレンジするなど、地域の活性化につながった。

地区名	信砂	朱文別	別苅
事業工期	H26-R5	H27-R6	H27-R3
R3年度末進捗率	69%	65%	100%
R3年度施工面積	区画整理 27ha	区画整理 11ha	区画整理 15ha



整備前: 小規模・不整形な水田(信砂地区)



整備後: 大区画化された水田(信砂地区)



整備後: 水田での収穫作業(信砂地区)



工事中: 区画整理 施工状況(別苅地区)



めざす姿の実現に向けた取組方向

(1) 多様な経営体の生産性向上をめざす

- 補助事業を活用し、経営方針に適した草地整備や牛舎等の施設整備、機械導入を推進
- 草地の生産性向上に向けた草地更新の促進や植生改善、乳牛の飼養環境の改善などへ取り組む
- コントラクターや公共牧場など、地域の営農支援組織の充実を図り、外部化・効率化等を進める

(2) 地域と未来を担う人材が活躍する酪農地域をめざす

- 新規就農者を確保・育成するため、就農セミナーの実施や、酪農経営における知識を高める研修等を実施する
- 農泊など、農村地域の魅力を伝える取組を推進するとともに、都市と農村の交流活動を促進する
- 住みやすい酪農地域となるように、研修機会などを通じた交流促進を図り、地域のコミュニティ機能を高める

令和3年度の取組状況

(1) 多様な経営体の生産性向上をめざす

・補助事業を活用した草地整備や施設整備等

冷涼な気候と広大な牧草地を最大限活用するため、草地畜産基盤整備事業により草地整備を実施。草地の不陸や排水不良が改善され粗飼料の品質・生産性が向上。畜産クラスター事業により牛舎の建築や搾乳ロボットを導入し生乳生産量の維持・拡大を実施



整地後の播種状況

・地域の営農支援組織の充実

中頓別町、枝幸町及び猿払村の公共牧場に育成舎や堆肥舎、バンカーサイロを建設。哺育・育成の外部化・効率化を進めることで、搾乳に専念できる体制を構築し、生産性の高い酪農経営を確立。



建設された育成舎

(2) 地域と未来を担う人材が活躍する酪農地域をめざす

・新規就農者を確保・育成

道内外の大学生や地元高校生を対象に、動画を活用した「宗谷酪農セミナー」や「高校出前授業」を実施し、多様な人材の確保及び都市・農村の交流促進に向けて、地域や農業の魅力をもPR。



学生向けPR動画

また、新規就農者や雇用就農者、酪農ヘルパー等を対象とした研修会「SOYALルーキーズ☆カレッジ」を開催し、次代の農業を担う多様な人材の育成を図るとともに、先輩農業者との懇談の場を設け、地域交流の促進や相談しやすい環境づくりを実施。



SOYALルーキーズ☆カレッジ

・コミュニティ機能を高めるチーズセミナー

酪農地帯・宗谷らしい新たな食文化の創出に向けて、管内の農業体験交流施設において、地元産の生乳を使ったチーズづくり研修が行われた。



チーズづくりセミナー

参加した管内の農業者は、チーズづくりを通じた交流や意見交換を行い、地域のコミュニティ機能を高めた。

現状と課題

● 農家戸数の減少

毎年約20戸の離農に対し、新規就農は約15名（うち新規参入は約4名）。また、1戸当たり乳牛飼養頭数が年々増加しており、家族経営の維持に限界。

● 酪農産業の人材不足

酪農ヘルパーや農業法人、コントラクター等の支援組織における雇用労働力の確保も不十分。

● 知名度の低さ

管内は農地が安く新規参入に有利な反面、水産のイメージが先行し、酪農地帯としての知名度が低い。

● 担い手の育成環境

管内には農業高校をはじめ農業系の大学や専門学校がなく、他地域で見られる研修牧場等を核とした受入体制も未整備。

- ⇒ ① 道内外に向けた積極的・継続的なPRや誘致活動による新規就農及び酪農関連産業の人材確保
② 多様な担い手・人材を対象とした研修・交流機会を通じた次代の担い手育成及び地域コミュニティの活性化
が重要

取組の概要

○ 宗谷酪農をPRする「宗谷酪農セミナー」の開催

- 平成28年度から、道内外の農業系大学生を対象に、宗谷管内のPRや酪農・関連職業の紹介とともに、市町村による実習受入などの相談対応を実施。
- 各市町村等も参加し、宗谷地域をパッケージで効果的にPR。本セミナーを機会に、管内の農業法人や酪農関連職業への就職が実現しているほか、市町村等が独自に実施するセミナー等への誘致や、受入実習生の増加にも寄与。
- 令和3年度は、コロナ禍により、動画を作成・活用しPRする形で実施。



○ 研修カリキュラム「SOYALルーキーズ☆カレッジ」の実施

- 新規就農者や雇用就農者、酪農ヘルパーなど多様な人材を対象とした研修会を実施。
- 研修を通して基礎的な技術・知識を幅広く習得し、次代の農業を担う人材育成に繋がるとともに、先輩農業者との座談会や関係機関の職員を講師とすることで、地域農業に携わる人同士の関係性の構築・強化を促進。



○ 新規就農イベントへの「宗谷総合振興局ブース」出展

- 都市部で開催される一般向け就農・就職相談会に出展し、市町村の出展ブースと連携しながら効果的な呼び込み活動を実施。



○ その他、地元普通高校における出前授業や、女性農業者グループが行う研修・情報発信などの取組支援を実施。

体制図

宗谷管内地域担い手推進会議

各地域担い手センター（市町村）、各J A、振興局農務課・普及センター（事務局）

J A道中央会旭川支所、道農業公社道北支所、ホクレン稚内支所、技術普及室（天北支場）

取組協力
・意見

《生産者》
宗谷管内
指導農業者・
農業士会

各地域の取組と連携した
管内一体的な取組を推進

情報共有・意見集約

現状と課題

●酪農の現状

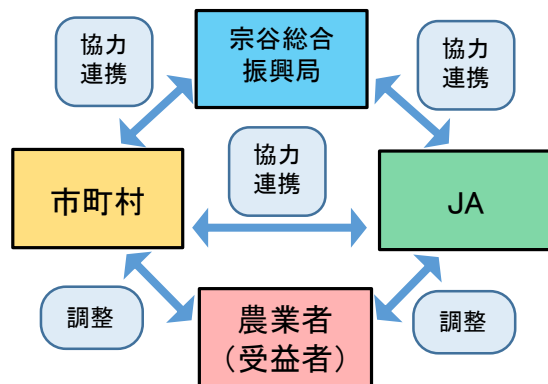
近年、農業従事者の高齢化による離農が進んでおり、生乳生産量が減少傾向となっている。

●地域の課題

草地の基盤整備や植生改善、乳牛の能力を最大限に発揮する飼養管理の徹底など、地域の強みを活かした生産性向上への取組が十分に進んでおらず、また、経営継続に向けた草地や施設・機械への投資が進んでいない。

体制図

■道営事業



取組の概要

○草地整備事業等の補助事業を有効に活用

- ・ 草地の起伏修正や排水不良を改善し作業の効率化を図り、良質な自給飼料を確保するため、8地区で草地整備（A=1,100.1ha）や暗渠排水（A=121.1ha）を実施。
- ・ 公共牧場の哺育・育成施設等の規模拡大を行い、労働力を補完する酪農ヘルパーやコントラクター組織と並んで農作業の分業化を図り、農業者が搾乳に専念できる体制づくりを推進。

草地整備



整備前



整備後

公共牧場整備



育成舎完成

暗渠排水



整備前



施工状況



暗渠配水管敷設



整備後



めざす姿の実現に向けた取組方向

- (1) 持続可能で先進的な農業の展開
 - 豆類の振興など適正な輪作体系の確立
 - ジャガイモシストセンチュウ類などの早期発見・まん延防止対策などの管内一体となった取組
 - スマート農業技術など先進技術の効果的導入
 - 農業生産基盤の計画的な整備
- (2) 経営体を支えるシステムの推進
 - 営農支援組織の育成強化など
- (3) オホーツクでの新規就農者や農業従事希望者など多様な人材の確保・定着
 - 管内一体となった新規就農等のPR、受入体制構築
 - 農業系大学や高校と連携した就農や農業関連産業への就業意欲の向上の取組
 - 農業生産や選果場など関連施設を支える多様な人材の確保・定着
- (4) オホーツク農業のブランド力向上
 - オホーツク産農畜産物の付加価値向上、魅力発信、ブランド力向上

令和3年度の取組状況

- (1) 持続可能で先進的な農業の展開
 - 豆類の新規作付・生産拡大に向け、各種事業活用等による機械導入(6市町9件)・施設整備(1件)を支援
 - 農業団体や各産地が実施するセンチュウ対策の取組に対して助言などの支援を実施
 - 事業を活用したスマート農業機器の導入支援(5地区)
 - 3月にスマート農業セミナーを開催し、農業者への技術普及を実施予定
 - 搾乳ロボット、自動給餌機、哺乳ロボットなどの省力化、飼養管理技術の高度化に資する機械導入支援(9市町35件)
 - 66地区(3市12町1村)において、ほ場の区画整理、用排水路整備、農道整備など基盤整備を実施
- (2) 経営体を支えるシステムの推進
 - コントラクターや利用組合が行う機械導入に対し、事業活用等による支援を実施(10市町 35件)
 - 畜産クラスター事業を活用し、TMRセンターの施設増設、湧別町及び遠軽町で新たな哺育育成センター整備開始
- (3) オホーツクでの新規就農者や農業従事希望者など多様な人材の確保・定着
 - 9月26日にマイナビ主催「WEB就農座談会(酪農・畜産特集)」に出展(8名参加)
 - 7月19日に美幌高校、11月5日に大空高校で出前授業を実施
 - 12月2日にオホーツク地域就農者対策会議を開催し、各地域の新規就農対策、就農可能地等の情報を共有
 - 12月2日、後継者のいない農業経営者等に対し、第三者継承を提案するセミナーを開催
 - 11月24日「退職予定自衛官の農業分野における職場体験会」を開催
 - 1月18日、東京農業大学生向けの就農セミナー開催
- (4) オホーツク農業のブランド力向上
 - 7月21日～10月31日の期間で、オホーツクスイーツ&ミルクスタンプラリーを実施(賞品応募総数:道内外から400名)
 - 普及センターが中心となり、管内農業者向けに付加価値向上研修会を2回開催予定(1月27日、2月10日)



現状と課題

- 管内の農家戸数は平成27年から令和12年までに34%減少する予想
- 離農跡地を周辺農家が引き受けることによる1戸あたりの耕地面積の一層拡大
- 人手不足などから今後、遊休農地の発生が懸念
- 人口減少による農村の集落機能の低下が懸念

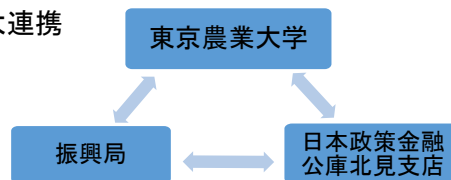
体制図

○オホーツク新規就農者対策会議

オホーツク新規就農者対策会議
市町村・農業委員会・JA
中央会北見支所
ホクレン北見支所
オホーツク農協連
日本政策金融公庫北見支店
オホーツク総合振興局農務課



○東農大連携



取組の概要

○管内一体となった新規就農等のPR、受入体制の構築

- ・ 振興局独自事業「オホーツク農業を未来に繋ぐ！『SyuNoh』推進事業」を活用し、各地域の新規就農対策や就農可能地等を情報共有するため、「オホーツク新規就農者対策連絡会議」を12月2日に開催
- ・ 併せて、後継者のいない農業経営者等に対して第三者継承を提案するセミナーを開催
- ・ オホーツク農協連と連携し、9月26日開催の「WEB就農座談会」に出展し、管内の農協出資型酪農法人の設立状況、求人情報等を紹介(8名参加)



○農業系大学・高校と連携した学生の農業への理解促進と就農や農業関連産業への就業意欲向上

- ・ 東京農業大学オホーツクキャンパス、日本政策金融公庫北見支店と連携し、東農大生向けの就農セミナーを令和4年1月18日に開催予定
- ・ 青年新規就農者確保対策事業を活用し「農業高校等出前授業」を開催【美幌高校(7月19日)】津別町の(株)希来里ファーム、(同)川瀬牧場を訪問【大空高校(11月5日)】小清水町のルバーブ生産グループを訪問

○農業生産、選果場など関連施設を支える多様な人材の確保・定着

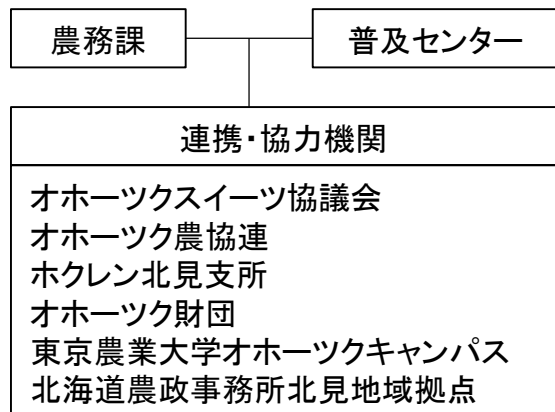
- ・ 退職年齢が若い自衛官に対して、再就職先として農業があることを紹介するため、「退職予定自衛官の農業分野における現場体験会」を11月24日に開催【参加隊員数】4名【施設見学等場所】(株)北海道畜産公社北見工場 美幌町農協コントラクター課 美幌広域連



現状と課題

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、
外食産業や観光業などで業務向けの需要が
大きく減少
- 食料の安定供給の重要性、地域の食の魅
力を見つめ直す機会になっている。
- オホーツク管内は、原料作物生産が多いた
め、農業の認知度が低く、付加価値向上の取
組が少ない。
【オホーツク地域に係る認知度・魅力度調査】
農業が盛ん:13.1%、水産業が盛ん:40.1%

体制図



取組の概要

- オホーツクスイーツ&ミルクスタンプラリー
【目的】スタンプラリーを通して、消費者に対し、
オホーツクの農業・農村・農畜産物の
魅力を再発信し、認知度向上、付加価
値向上につなげる。
【開催期間】 令和3年7月21日～10月31日
【参加店舗】 管内のパン、菓子・洋菓子店、
牛乳乳製品製造・販売店のうち
43店舗
【賞品応募総数】400件

開催期間中、振興局SNSでも店舗と
オホーツク産(道産)農畜産物を使用
した商品を紹介しPR



- 農業者等のための付加価値向上研修会
普及センターを中心に、農業者の付加価値向上の取組を進め
るため、毎年研修会を開催。
【R3年度の研修会(予定)】
①インボイス制度対応セミナー(令和4年1月27日)
講師:税理士法人アンビシャス・パートナーズ 森下浩氏
②マーケティングセミナー(令和4年2月10日)
講師:北海道よろず支援拠点 蒔田義一氏



めざす姿の実現に向けた取組方向

- (1) 多様な人材が活躍する農業・農村
 - 道立農業大学校など農業専門の教育機関と連携した就農・就業支援
 - 農業法人や関連産業、営農支援組織などの就業環境整備
 - 自衛隊など異業種からの人材確保に向けた取組や農福連携等の促進
- (2) 安定的な食料の生産・供給拠点の形成
 - 近代的な生産施設に加え、ほ場の大区画化等の土地基盤整備の推進、貯蔵・流通体制の強化
 - 耕畜連携による土づくりや農業研究機関等と連携した生産技術の向上、安全・安心な食の促進
- (3) ブランド力強化や海外を視野に入れた販路拡大
 - 道内唯一の北米・EU向け食肉加工処理施設等を活かした輸出拡大の推進
 - 産地一体となった6次産業化など付加価値向上の取組の推進
 - 安全・安心な食を供給する「十勝」を世界に通用するブランドとする取組強化
- (4) 新たな価値を生み出す科学技術等の活用
 - 生産性の高い土地基盤等を活かしたICTやロボットなどの先端技術の導入促進
 - 畜産経営の大規模化に対応したバイオマス利活用と耕種経営との連携強化

令和3年度の取組状況

- (1) 多様な人材が活躍する農業・農村
 - 指導農業士等を講師とした農業高校での出前授業の実施
 - 農業経営の法人化、経営継承等の個別相談を受ける農業経営相談会の開催
 - 退職予定自衛官向けインターンシップや農福連携シンポジウムの開催
- (2) 安定的な食料の生産・供給拠点の形成
 - 農業生産の高品質・高付加価値化や低コスト化の推進及び自給飼料生産拡大、循環型社会構築のために必要な施設整備等を支援
 - 環境保全型農業を実践する農業者が組織する団体等への支援
- (3) ブランド力強化や海外を視野に入れた販路拡大
 - 最新の輸出関連情報を提供する輸出拡大ステップアップセミナーの開催
 - 国際水準GAPの実施、第三者認証取得の推進
- (4) 新たな価値を生み出す科学技術等の活用
 - 技術支援会議構成機関と十勝農協連が連携し、管内畑作経営へのスマート農業機器導入状況調査の実施
 - バイオガスプラントから発生する消化液の畑作利用について、散布実証や実証結果の事例発表会を実施。



【写真1】退職予定自衛官向けインターンシップ



【写真2】士幌高校におけるGGAP公開審査

現状と課題

- ふん尿処理対策・環境対策・売電収入目的から、家畜ふん尿由来のバイオガスプラントが増加。(49基 振興局調べR3.3時点)
- ノンファーム型接続の受付がR2.12月から開始し、管内で今後31件のプラントが建設検討。(十勝バイオガス関連事業推進協議会調べ)
- バイオガスプラントから発生する消化液は畑作農地利用に係る実証データが少なく、地域での活用波及に課題があった。

取組の概要

- 耕種作物への消化液散布モデルの実証
 - ・消化液等の有機物利用方法の提案(R2)
(減肥の可能性、有機物施用可能量・可能時期 など)
 - ・飼料作物、てん菜、小豆、小麦への施用試験の実施(H30-R3)
(施肥法の試算、各種作物への生育や収量への確認)



写真:サイレージへの効果確認

- 消化液処理運営モデルの確立
 - ・管内バイオガスプラント運営実態調査
(稼働状況、導入・運営コスト など)
 - ・先進事例の調査(釧路・根室管内)
(散布方法や運営に関する聴き取り調査)
 - ・消化液施用に係る事例発表会の開催
(実証結果の共有と意見交換、アンケートによる課題把握)

- 管内関係機関との連携
 - ・家畜ふん尿由来の再生可能エネルギーの利活用に関する調査研究及び実証を行う「十勝バイオガス関連事業推進協議会」への参画(市町村、農業関係団体、商工関係団体、大学、金融機関)

体制図

振興局	普及センター	道総研	市町村・JA
<ul style="list-style-type: none"> ・プラント調査 ・実証参画 ・先進事例調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・散布実証 ・先進事例調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・実証協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・実証協力 ・調査協力

現状と課題

- 管内ではJAや自治体、農協連、ホクレン、大学などが事業を活用して様々な技術、検証、普及が行われている。
- 技術が急激に発展する一方、経営に与える影響の検証や取組内容に係る地域間での共有が進んでいない。
- 振興局はR3より技術支援会議と十勝農協連、JAネットワークとの連携を強化、スマート農業を含めた管内の技術課題について検討を深めている。

体制図

振興局	普及センター	道総研	十勝農協連
<ul style="list-style-type: none"> ・調査内容検討・参画 ・結果共有 ・補助事業相談窓口 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査内容検討・参画 ・分析手法検討 ・相談窓口 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査内容検討・参画 ・分析・検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査実施・集計 ・分析・検討 ・事例集作成

取組の概要

- 管内畑作農家約3,000戸への導入実態調査実施
 - ・ JAネットワーク、十勝農協連、道総研、普及センター、振興局が連携して調査を企画、実施。
 - ・ 畑作農家3,051戸に対し、スマート農業技術の導入実態についてアンケート調査を実施、1,112戸(回答率36.4%)から回答。
 - ・ 自動操舵システムやGPSガイダンスシステムの導入がかなり進んでいる状況や、今後期待される技術、導入済みの技術の内容、また導入されたスマート農業技術が身体的、精神的、経済的にどの程度影響を及ぼしているか、行政等への要望について調査した。
- 管内先進事例への聴き取り調査
 - ・ JAネットワークから推薦されたスマート農業技術に先進的に取り組む農業者13戸を対象として、十勝農協連、道総研、振興局で導入技術に係る経営への影響などについて聴き取りを実施した。
- 管内関係機関との共有
 - ・ 調査結果を十勝農協連、道総研、普及センターが中心となって分析し、事例集にまとめ関係機関に共有していく。



写真:先進的農家への調査



めざす姿の実現に向けた取組方向

(1) 草地型(循環型)酪農の推進

- 草地の適正管理や草地整備改良事業の計画的な実施
- 生涯生産性の向上に向けた乳牛等の遺伝的改良や疾病軽減対策の推進
- 家畜排せつ物の適切な処理・還元などによる、環境や家畜にもやさしい農業経営の推進

(2) 農業農村を支える多様な担い手と人材の育成確保

- 規模拡大、中小規模経営維持、施設園芸や肉牛への参入等多様な担い手の育成確保の推進
- 後継者の育成や配偶者の確保への取組推進、女性・高齢者がより活躍できる環境の整備
- スマート農業技術の導入や営農支援組織の育成・強化による、低コストでゆとりある経営の確立
- 新規参入者の広域的な受入体制の整備や第三者経営継承に向けた仕組みづくりの推進
- 雇用人材が安心して働き続けられる環境の整備
- 災害等に発生に備えた組織継続体制の構築と営農支援体制の確立

(3) 高付加価値化の推進と新たな可能性の追求

- 6次産業化や高収益作物の導入の推進
- 受精卵移植等による和牛生産拡大や育成・肥育の飼養管理技術の向上
- 地域インフラ活用による「食と観光」の魅力発信

令和3年度の取組状況

(1) 草地型(循環型)酪農の推進

- ・ 道営草地整備事業及び公社営事業における施工時期の平準化を推進した。

		R元年度		R2年度		R3年度	
釧路 根室 合計	整備量	3,842 ha		3,390 ha		3,131 ha	
	夏施工	3,120 ha	平準化率	2,386 ha	平準化率	2,025 ha	平準化率
	春秋施工	722 ha	19%	1,004 ha	30%	1,106 ha	35%

- ・ 根室地域農業技術支援会議において、「草地改良時期の分散化(麦類同伴)」をプロジェクト課題に位置づけ、先行事例の収集や実証試験を令和2年度から実施しており、令和3年度においても試験圃を設置し調査を継続した(次年度も継続調査を予定)。



試験圃の様子

(2) 農業農村を支える多様な担い手と人材の育成確保

- ・ 釧路両(総合)振興局では、市町村やJAが連携し、より多くの人材確保の機会を創出するため、令和4年1月に「根釧独自就農フェア(東京都での現地開催、オンライン併用)」の開催を予定しているほか、併せて関東圏の専門学校等への学校訪問を予定している。
- ・ 釧路総合振興局では、「北海道『釧路』就農相談会」を令和3年10月に東京都、11月に大阪府で開催した。農協等5つの団体が参加し、牧場等への就職、新規就農のほか、生活環境などについて相談対応を行った。
- ・ 根室振興局では、令和3年10月に管内農業高校の学生を対象に就業意欲の向上を目的とした出前授業を開催し、管内の農業関係施設の視察研修や管内外の先進的な酪農家の視察等を実施した。



釧路就農相談会



根室出前授業



動画配信

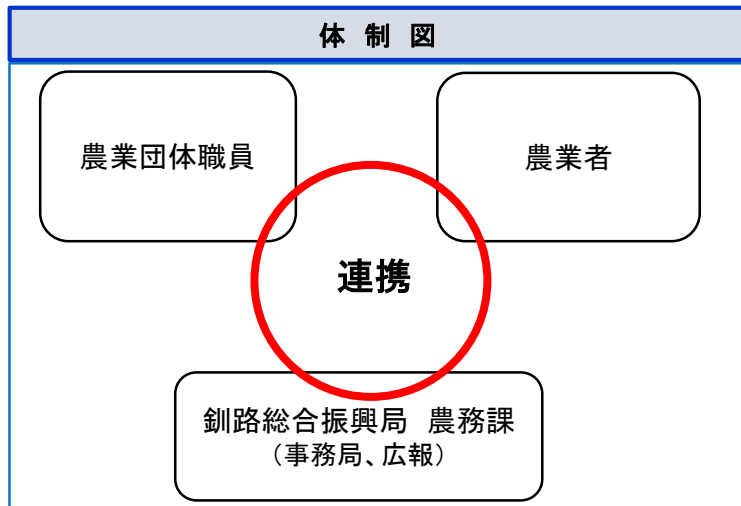
(3) 高付加価値化の推進と新たな可能性の追求

- ・ 釧路総合振興局では、管内産牛乳・乳製品の魅力を広く発信するため、令和3年10月に「釧路デーリィコンシェルジュ」を任命し、店頭やイベントで商品説明等を行った。11月～12月には、管内チーズ工房と飲食店が連携し、独自のメニューを提供する「チーズなフェアinくしろ」を開催。メニューの感想などの動画をインフルエンサーが配信した。

現状と課題

- 新型コロナウイルス感染症の影響の長期化に伴い、牛乳・乳製品の需要が低調に推移。
- コロナの影響で小売店では試食提供を控える傾向があり、消費者に牛乳・乳製品のPRができていない状況。

体制図



取組の概要

釧路デーリコンシェルジュの取組

(デーリイ→乳製品の、コンシェルジュ→サービスを提供するプロ)

農業者、農業団体職員(ホクレン、農協中央会、釧路農協連)及び振興局職員が、釧路管内産の生乳を使用して製造された商品の味、美味しい食べ方、製造方法、生産者の思いなどを理解した上で、消費者に魅力を発信する取組を行った。

- イオン釧路店でのPR (令和3年10月27日～31日(5日間))
21名のコンシェルジュにより、来店客に管内牛乳・乳製品の良さや商品の魅力を発信し、315個の試供品を来店客に配布した。
- チーズパーティでのPR(令和3年12月15日)
釧路市内のホテルで開催されたチーズパーティにおいて、コンシェルジュ4名が管内産チーズの特徴や美味しく食べる方法を紹介した。



イオン釧路店でのPR活動

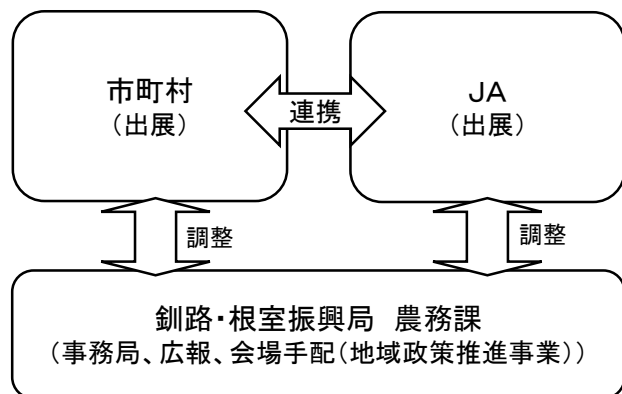


チーズ工房代表による勉強会

現状と課題

- 釧路・根室地域の新規就農者数は全道同様減少傾向にある。
- 各市町村・JAは、大都市圏で開催される「新農業フェア」などに出展し、新規就農者確保のためPR活動を展開してきた。
- しかしながら、他県・他地域との合同開催となるため、競合が激しく十分なPR効果を得られないことから、より効果的な出展機会を求める声があがっていた。

体制図



取組の概要

釧路・根室両振興局管内の市町村・JAが連携し、令和元年度より根釧地域独自の就農フェアを開催

- 令和元年度(令和2年1月24日)
 - ・ 現地開催(ふるさと回帰支援センター(東京都))
 - ・ 各市町村・JAが設ける対面式ブースにて就農相談
- 令和2年度(令和3年2月6日)
 - 方 法:オンライン開催
 - 1)根釧酪農の魅力紹介セミナー(酪農YouTuber 浅野達彦氏)
 - 2)個別相談(酪農の仕事や就農相談に市町村・JAが対応)



オンラインセミナー
(YouTube「浅野達彦@酪農」チャンネルより)

相談者の感想

とても丁寧な説明でオンラインではなく実際に道東に訪れてみたいと思いました!

Zoomの対談で、資料では分からない生の声が聞けたので良かった。

市町村・JAの感想

オンラインで話が聞き取れるか(伝わるか)等の心配があったが、資料の共有等ができ、スムーズに説明できた。

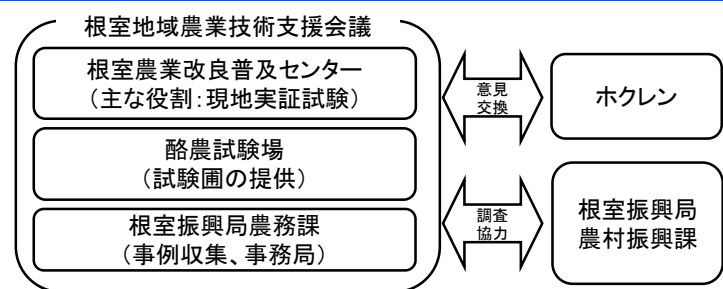
根釧地域に限定し、酪農に特化した相談会として対応できた。

- 令和3年度(令和4年1月28日(予定))
 - 方 法:現地+オンライン ハイブリッド開催
 - リモートによる酪農家との対談セミナーと、対面又はオンラインによる個別相談

現状と課題

- 釧路・根室地域では自給飼料に立脚した草地型酪農を展開するため、道営・公社営等による草地整備改良事業を推進。
- 施工機械の老朽化やオペレータの高齢化により施工能力が低下するなか、施工時期が1番草収穫後の7～8月に集中。要因として草地整備当年の粗飼料確保量の不足が挙げられる。
- 麦類同伴栽培により、十分な粗飼料(麦)を確保しつつ施工時期の分散化が期待されるが、管内での取組事例が少なく、実証試験を通じた技術構築が課題。

体制図



取組の概要

- 麦類同伴栽培は、牧草と麦類の種を同時に播く栽培技術であり、以下のような効果が期待されている。
 - ・ 雑草の繁茂を抑制できる
 - ・ 整備当年に1番草に代わる飼料(麦)を確保できる
 - ・ 整備翌年の牧草収量が多く、植生の良い草地となる
- 根室地域農業技術支援会議では、草地改良時期の分散化(麦類同伴)をプロジェクト課題として位置づけ、令和2年度より取組を開始。令和6年度からの普及推進を目指し、実証試験や意見交換を重ねている。

主な取組実績及び予定

R2	事例調査、実証調査(～R4まで継続)
R3	関係機関意見交換会開催
R4	関係機関意見交換会開催
R5	調査結果検証、普及パンフレット作成
R6～	普及推進活動



麦同伴栽培の概要

(ホクレン作成資料_令和2年度麦類同伴栽培に係る意見交換会)

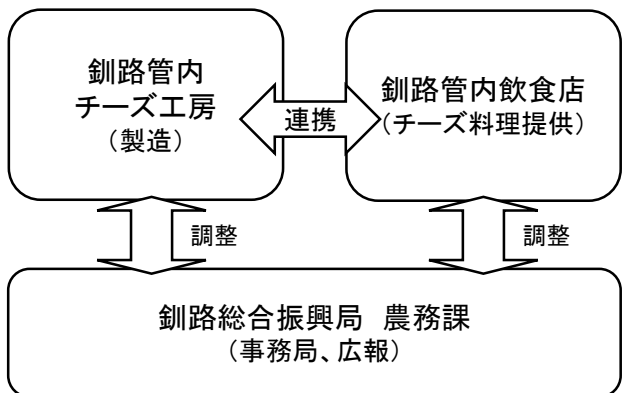


試験圃での作業状況

現状と課題

- 新型コロナウイルス感染症の影響の長期化に伴い、牛乳・乳製品の需要が低調に推移。
- 食文化の変化や健康志向の高まりにより、チーズの国内消費量は年々増加している。
- 釧路管内飲食店、小売店で管内産チーズがあまり提供されていないため、消費者に魅力が十分伝わっていない。

体制図



取組の概要

- 釧路管内のチーズ工房で作られたチーズを使用し飲食店が特別メニューを提供する「チーズなフェアinくしろ」を令和2年度より開催。

- 令和2年度
令和2年11月20日～12月5日

- 参加チーズ工房: 7工房
参加飲食店: 12店舗
- ・ チーズ工房パンフレットの作成
 - ・ チーズ工房紹介動画の作成
 - ・ チーズレシピ集の作成

- 令和3年度
令和3年11月19日～12月18日

- 参加チーズ工房: 7工房
参加飲食店: 13店舗
- ・ 釧路在住インフルエンサーによる各店舗の特別メニューの感想などの動画をYouTubeにより5回にわたり発信



令和3年度「チーズなフェアinくしろ」パンフレット



チーズ工房紹介動画



YouTube動画